

# 生徒の皆さんへ

## —— 紫陽花（あじさい）の力 ——

6月に入りました。雨の日が多くなりますが、うっとうしさに負けないで、心さわやかに1学期の充実期を過ごしましょうね。

さて、最近、あちこちの道々、庭で紫陽花がその存在を大きくしていています。紫陽花は6月の象徴のような花ですから、皆さんも気づいていることでしょう。では、みなさんは、「紫陽花」の名前の由来を知っていますか。

実は、「あじさい」という名前は、「あづさい」が変化したものだそうです。この「あづ」というのは、集まるの「あつ」から変化したもので、「さい」は、「本当の藍色（あいいろ）」という意味だそうです。言うなれば、青い花が集まって咲く様を表しています。最近、種類も多くて色も形も様々ですね。

さて、私は、この花を見るとき、いつも思うことがあります。それは、「集団の力の偉大さ」です。なぜそう思うのかと言いますと、他の花の多くは、一輪でも美しく存在感があります。しかし、紫陽花はというと、もちろん1つ1つの花も悪くはないのですが、やや花として訴えるものが乏しいような気がしています。ですが、それはいくら乏しくても多く集まると遠くからでもあのように、「どうだ美しいだろう」と花としての美しさと存在を誇って見えるのです。

ちょっと昔の話になりますが、戦国時代に毛利元就という殿様がいました。この殿様は、自分の三人の子どもたちに「1本の矢は1人でも折ることができるが、3本になったときには、一人ではなかなか折ることができない」ということを教え込んでいました。要するにこのことは、三人が協力し合うことで強靱な力を生み出し、その力をもって領土を守って欲しいと願っていたわけです。

私たち一人の力には限界があります。また、私たちは、一人では生きていくわけではありませぬし、一人で生きていけるわけでもありません。必ず、他の誰かに支えられて生きていくのです。（5/30 会礼でお話しした「団」の意味はここにあります）

「紫陽花」、これからあちこちで見事なまでに開花します。そんな紫陽花の花、「集まり固まったから美しい」のであり、これ、あなた方の学級も同じなのです、あなた方の学年も同じなのです、あなた方の部活動も同じなのです。そして、この北中も、1人1人が集まって、固まってこそ美しい『北中花』が咲くのです。あなた方一人一人は、あの紫陽花の1つの花と同じなのですよ。1人では存分に力を発揮できないのです。みんながいるから、あなた方一人一人は力を出せるのです。団結した美しさは、この上なく青春時代を輝かします。

紫陽花を玄関に飾りますね。その紫陽花を見て、学級、学年、部活動、そして学校とはどうあるべきか考えてくださいね。

**成功の反対は、失敗ではありません。**

「なにもしない」ことです。（公立中学校教諭 小島裕治氏）

小島さんは、両腕がないハンディを越えて中学校の先生になった方です。上記の言葉は、卒業生へのメッセージとして送ったものです。若いうちには「失敗」なんて言葉はいらない。「行動」を起こしてできなかったなら、それは、「できること」の前段階だ……。さあ、やろう！

